



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism

芸術文化観光専門職大学

ビジョン2050

芸術文化観光専門職大学
2025年3月

目次

ビジョン策定の考え方	01
芸術文化観光専門職大学 ビジョン2050	02
本学を取り巻く環境	03
ビジョン2050：4つの柱と5つの重点施策	05
目指すべき大学像（4つの柱）	06
個別取組	08
5つの重点施策	13
ビジョンの検討スケジュール	18
関係データ集	

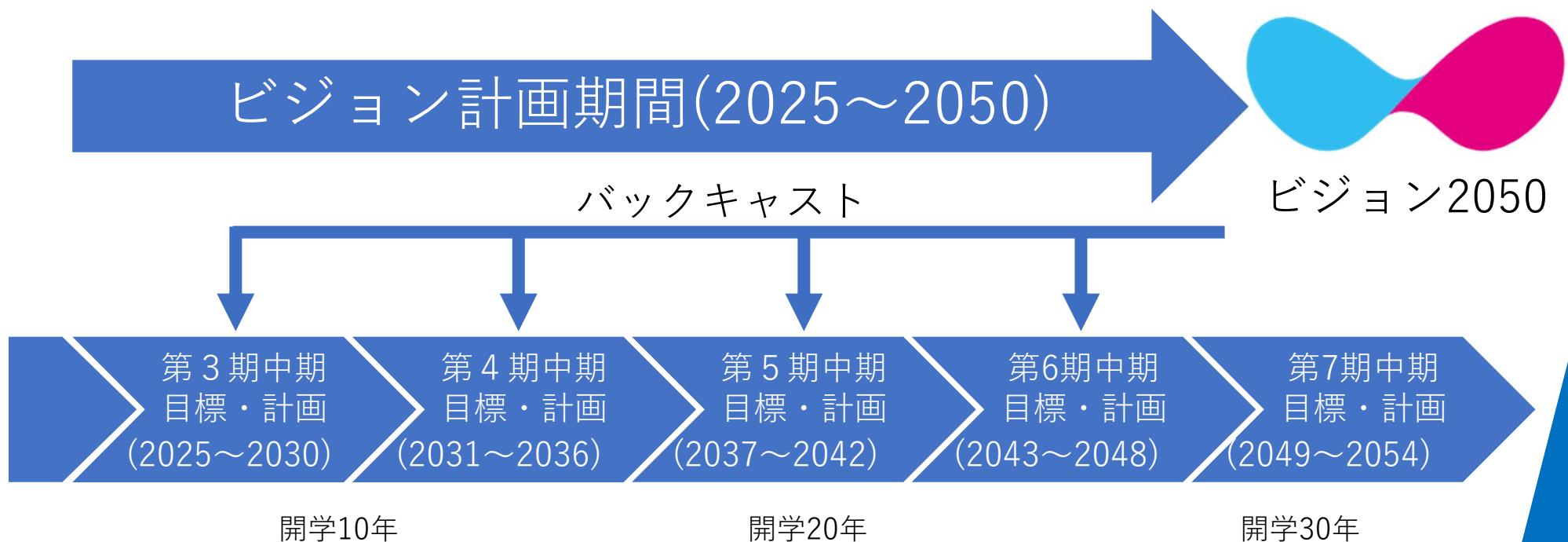


ビジョン策定の考え方

本ビジョンは、本学の基本理念、目指す大学像及びクレドを踏まえ、
現在のリソースや過去の経緯に拘らず、
自由な発想で2050年における本学の姿を描いたものである。

その中で、「4つの柱」と「5つの重点施策」を掲げることで、
但馬地域にある唯一の四年制大学として進むべき大きな方向性を、
出来るだけ分かりやすく示すことに留意した。

今後、本ビジョンについては、具体的な検討を進めることになるが、
今回盛り込むこととなった個々の取組は、その熟度や実現可能性には差異がある。
については、来年度から設置予定の「ビジョン推進室」（仮称）並びにその作業部会を中心となり、
学内の意見を取り入れながら議論・検討を重ねるとともに、
関係するステークホルダーとも十分調整しながら、大学全体で着実に進めていきたい。



芸術文化観光専門職大学 ビジョン2050

本学の基本理念

- ・芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出する専門職業人の育成
- ・地域のオープン・イノベーション拠点の形成
- ・地域の発展・繁栄及び新たな国際ネットワークの形成に貢献

目指す大学像

- ・芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学
- ・芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学
- ・地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学

本学のクレド

ミッショ

- ・本学は芸術文化観光学の構築を通じて、生きる歓びのあふれる共同体をインテラローカルに紡ぎ出す知と行動の拠点となる

ビジョン

- ・本学は芸術文化と観光の協働的実践を積み重ね、共同体の活力を創造し、社会実装につなげる先導的な大学モデルとなる

バリュー

- ・さまざまな矛盾と向き合い、ゆっくり悩む時間を大切にしよう
- ・多様な選択と決定を受け止める寛容な感性を育もう
- ・知らない世界、知らない自分への冒険を楽しもう
- ・他者との違いから学び合い、責任を持って行動する知性を養おう



2050年にも本学が但馬地域に存在する意義を有し、
芸術文化と観光を架橋した教育研究を通じて社会に貢献し続けるための道標

2050年における大学の姿を描き、未来からバックキャストして実施を目指す取組と、その中で重点的に取り組んでいく施策

4つの柱

1. オンリーワンに磨きをかける大学
2. 但馬とともにある大学
3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学
4. 働く人の個性と能力が輝く大学

5つの重点施策

- I. 学部・学科再編等の検討
- II. 但馬教育未来会議
- III. 同窓会ネットワークの強化とNPOの設立
- IV. 日本語教育センターの設置
- V. 但馬版アドミッションオフィスの設立

本学を取り巻く環境（1）

1 但馬地域（3市2町）の人口減少

- 2050年将来推計人口は減少を継続（91,393人、2020年度比42.2%減）
- 出生数も減少（2023年度の出生数合計は702人）

2 大学進学者数の減少

- 日本の大学進学者数も減少中（2041年の日本の予測18歳人口は80万人以下）
- 2040年以降の大学進学者数は2022年度の大学入学定員総数を下回る（527,360人 < 626,532人。G7並の外国人留学生受入が前提）

3 インバウンド観光客の増加

- 訪日外国人来訪者数はパンデミックからの回復途上（2019年の約79%）
- 豊岡市の回復速度は全国平均よりも速い（2023年の外国人延べ宿泊者数は2019年度の水準の約95%）

4 社会ニーズの変化

- 仕事に必要な能力：「問題発見力」「的確な予測」「革新性」が一層求められる
- 産業界の大卒者への期待：
「主体性」「チームワーク・リーダーシップ・協調性」「課題設定・解決能力」「論理的思考力」「文系・理系の枠を超えた知識・教養」「専攻分野での基礎知識」
- 資質的なコンピテンスの重視：「対人関係」「自己管理力」「協調性」

5 在留外国人の増加

- わが国の在留外国人数は過去最高を更新中
- 兵庫県内の在留外国人数、県内の外国人児童生徒数も急速に増加
- 日本語指導が必要な高校生等の大学等進学率は51.8%

（参照データは巻末参照）

本学を取り巻く環境 (2)

6 本学への入学志願者数

- 入学志願者倍率は低下傾向にあるものの高い倍率を維持
- 47都道府県全てから学生が集まるなど全国から優秀な学生が入学する一方、但馬地域からの志願者は16人、入学者は4人と低調

7 専門職大学としての現状

- 専門職大学24校の中でも「芸術文化」と「観光」の架橋を掲げる本学は唯一無二の存在
- 専門職大学独自のルール（授業の1/3は実習・実技、原則40人以下の少人数教育、教員の4割以上は実務家教員、等）に起因し、教員・学生にゆとりがないという意見も

8 在学生の状況

- 在学生の専攻は芸術文化系に偏り（芸術文化系6割、観光系4割）

9 地域貢献への期待

- 地域リサーチ＆イノベーションセンター（RIC）の活動を通じ、開学以来、88の地域連携プロジェクトを成約（民間企業や地元自治体との協働）

10 教職員の状況

- 但馬地域外に生活の本拠がある教職員が多い
(2024年4月1日現在、但馬地域に居住する教員は23人(57.5%)、自治体派遣・研修職員は11人※(55%)
※異動に伴い一時的に居住している者を除く)
- 概ね半数の職員（自治体からの派遣職員・研修職員）が2～3年で異動するため、教務・入試事務等の専門的知識の継承に課題

ビジョン2050：4つの柱と5つの重点施策

2050年にも本学が但馬地域に存在する意義を有し、

芸術文化と観光を架橋した教育研究を通じて社会に貢献し続けるための道標

4つの柱

1. オンリーワンに磨きをかける大学

国内で独自かつユニークな教育・研究を提供し、社会に貢献し続ける。

2. 但馬とともにある大学

但馬とともに歩み、但馬から必要とされる。

3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学

世界中から人々が集い、インターラーカルな協働のハブとなる。

4. 働く人の個性と能力が輝く大学

本学ならではの働き方・働く環境を創り出す。

5つの重点施策

I. 学部・学科再編等の検討

II. 但馬教育未来会議

III. 同窓会ネットワークの強化とNPOの設立

IV. 日本語教育センターの設置

V. 但馬版アドミッションオフィスの設立

目指すべき大学像（4つの柱）

1. オンリーワンに磨きをかける大学

国内で独自かつユニークな教育・研究を提供し、社会に貢献し続ける

①社会実装につなげる 先導的な教育・研究の推進

- 社会や時代の要請に応えるため、カリキュラムや学部・学科再編、入試改革、大学院設置など、時宜を得た検討を行う。

②専門職大学の特色を 活かした実習の充実

- ラーニング・ブリッジングの効果が最大限発揮できるよう、実習のあり方を絶えず見直す。
- 恒久的・安定的な実習先の確保に向け、実習施設を運営する外付けNPOを設置するなど、持続可能な実習制度を構築する。

③オンリーワンを支える インフラ整備

- 本学独自の教育・研究、社会貢献を支える施設、設備（日本語教育センター、大学が運営する宿泊施設や劇場など）を充実する。

2. 但馬とともにある大学

但馬とともに歩み、但馬から必要とされる

④地域で活躍する人材の育成

- 但馬地域の高校生が大学生として地域に残り、地域の元気の源となるよう、指定校推薦などにより本学への進学を促進する。
- 但馬地域の人的資源を活用したカリキュラムの増設も推進する。

⑤地域貢献の更なる促進

- 地域との連携による公開講座の充実などにより、大学の地域住民への開放を更に進める。
- 同窓生のネットワーク化を活かした地域との協働を推進する。

⑥小中高大連携の推進

- 但馬唯一の4年制大学として、小中高大連携を推進するとともに、但馬の教育の将来について地域とともに考える。

目指すべき大学像（4つの柱）

3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学

世界中から人々が集い、
インターローカルな協働のハブとなる

⑦但馬地域の特性を活かした 留学生受入れの促進

- ・学生の異文化交流、異文化理解を進め
るため、留学生特別選抜やダブル・
ディグリー・プログラムの導入、日本
語教育センターの設置などにより、
留学生の受入れを促進する。

⑧海外機関等との連携強化

- ・大学の国際化と研究力向上に向け、
海外からの客員教員の受入れや本学
教員の海外派遣を促進するとともに、
国際共同プロジェクトを積極的に推進
する。

⑨世界での知名度向上

- ・学長のトップセールスやホームページ
等の多言語化により、海外に向けた
広報を充実し、大学の国際化を図る
ことにより、世界から評価される大学
を目指す。

4. 働く人の個性と能力が輝く大学

本学ならではの働き方・働く環境を創り出す

⑩機構の改革

- ・実習支援、留学生支援、入試担当等といった専門性を持つ
職員を採用・育成するため、教員と事務職員の中間組織と
なる但馬版アドミッションオフィスを設立する。
- ・分野横断的な課題を含む個別課題に応じた、学長特別補佐
やビジョン推進室（仮称）の設置など、ガバナンスの改革
を行う。

⑪魅力ある職場の構築

- ・出産、子育て、介護など教職員のライフステージに配慮し
た勤務制度を整備するとともに、クオーター制を活かした
本学独自のサバティカル制度の導入など、すべての教職員
にとって柔軟な働き方を実現する。

第1の柱：オンラインに磨きをかける大学（1）

(※)は重複する項目

項目	次期中期計画以降検討ないし実現を目指す取組	重点施策
①社会実装につなげる先導的な教育・研究の推進	1. カリキュラム再編（必修科目の整備、削減等） 2. リベラルアーツの充実（展開科目の整備等） 3. 実技教育の拡充 4. 国内大学との連携（単位互換、国内留学、ダブルディグリー（※）等） 5. キャリア提供の幅の拡大（教職、学芸員資格、独自資格等） 6. 学部・学科再編（複数学部・学科、コース設置等含む） 6-1. 他分野（美術、音楽、映像、デザイン等）への広がり 6-2. 適正な学生定員（学生数に見合う教職員数の担保） 6-3. キャンパスの増設・拡張（※） 6-4. 入試改革（実技試験を含む10月入試の実施等） 7. 大学院設置（※）	◎
②専門職大学の特色を活かした実習の充実	8. 持続可能な実習先の確保 9. 実習の自由度を高める（実習先を自分でみつける、クオーターを跨ぐ実習等） 10. 海外実習の拡充 11. 外付けNPOの設置等（※）による恒久的な実習先の確保 12. 学内の観光教育施設の設置（※） 13. 実習支援員の増員 14. 大学が運営する宿泊施設や劇場の設置（※）による恒久的な実習先の確保 15. 大学を拠点とするフランチャイズ劇団の設立	◎

第1の柱：オンラインに磨きをかける大学（2）

(※)は重複する項目

項目	次期中期計画以降検討ないし実現を目指す取組	重点施策
③オンラインを支えるインフラ整備	16. 日本語教育センターの設置 (※)	◎
	11. 外付けNPOの設置等 (※)	◎
	17. 先進的なオンライン講義・実習、オンライン勤務のあり方の検討(※)	
	18. 英語での講義・実習の導入(※)	
	19. キャンパス増設・拡張 (※)	
	19-1.キャンパス間の交通手段の確保（自動運転等）	
	19-2.劇場のバックヤード設置	
	12. 学内の観光教育施設の設置 (※)	
	20. コモンスペース等の拡充	
	7. 大学院設置 (※)	
14. 大学が運営する宿泊施設や劇場の設置 (※)		

第2の柱：但馬とともににある大学

(※)は重複する項目

項目	次期中期計画以降検討ないし実現を目指す取組	重点施策
④地域で活躍する人材の育成	21. 但馬の高校生の進学先（指定校推薦等の検討含む）	
	22. 但馬の伝統文化・人材等を活用した新規カリキュラムの増設	
	23. 地元（移住者含む）からのプロパー採用	
⑤地域貢献の更なる促進	24. 地域の人々が大学にやってくる仕組み（カフェテリア等）	
	25. 地域住民へのさらなる開放	
	25-1. 公開講座の科目の多様化	
	25-2. 地域から学ぶ但馬版寄附講座の設置	
	25-3. パフォーミング・ライブラリーの拡充	
	26. 同窓生のネットワーク化による地域との協働（同窓会組織の強化）	◎
⑥小中高大連携の推進	11. 外付けNPOの設置等（※）	◎
	27. 但馬教育未来会議	◎
	28. 多文化共生教育（継承語教育等）への貢献	
	29. 特別支援学校との連携（新設校への実習や授業）	

第3の柱：但馬を世界に開き、世界が憧れる大学

(※)は重複する項目

項目	次期中期計画以降検討ないし実現を目指す取組	重点施策
⑦但馬地域の特性を活かした留学生受入れの促進	30. 留学生・帰国子女等の特別選抜の実施（交換留学含め2割）	
	31. ダブルディグリー(※)	
	16. 日本語教育センターの設置(※)	◎
	18. 英語での講義・実習の導入(※)	
⑧海外機関等との連携強化	32. 国際共同プロジェクトの推進	
	33. 教職員の国際交流の拡充（客員教員の受け入れ・派遣等）	
	34. 海外大学との連携拡充	
⑨世界での知名度向上	35. 多言語広報の充実	
	36. トップセールスによる海外広報	
	37. 英語名称の変更	

第4の柱：働く人の個性と能力が輝く大学

(※)は重複する項目

項目	次期中期計画以降検討ないし実現を目指す取組	重点施策
⑩機構の改革	38. 但馬版アドミッションオフィス（教員・事務方から独立した組織）の設立 39. 専門性を持つ職員の採用・育成（実習支援、留学生支援、入試担当、劇場管理等） 40. 学長特別補佐、副学部長等の設置 41. ビジョン推進室（仮称）の設置 42. Dx推進室（仮称）の設置（業務フロー改善）	◎
⑪魅力ある職場の構築	43. 研究環境の整備 43-1. データベースアクセスの改善 43-2. 紀要のデジタル化 43-3. 出版の補助 43-4. 学術情報館の利用環境の柔軟化 43-5. 国際会議の発表支援 44. クォーター制を活かした本学独自のサバティカル制度の確立（職員含む） 45. 教員ベンチャーの支援策拡充 45-1. 副業支援規程の検討 45-2. 特許と商標等の出願支援 46. 幅広い学内コミュニケーションチャネルの創出 46-1. 「対話の会」の定例化 46-2. カフェテリア・食環境の充実 46-3. ラーニングコモンズの利用環境の柔軟化 17. 先進的なオンライン講義・実習、オンライン勤務のあり方の検討(※) 47. より柔軟性を持った勤務制度（産休・育休・介護等）	

重点施策Ⅰ：学部・学科再編等の検討

1. オンリーワンに磨きをかける大学

2. 但馬とともにある大学

3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学

4. 働く人の個性と能力が輝く大学

今後も優秀な学生が集う場であり続けるため、社会環境の変化も踏まえ、カリキュラム、学部・学科、入試制度、大学院検討など、教育研究の不斷の見直しを行う。

内容	<p>以下の項目について検討する：</p> <ul style="list-style-type: none">■ カリキュラム再編 必修科目のあり方、リベラルアーツの充実、他大学との連携（単位互換、ダブル・ディグリー等）、教職免許・学芸員資格取得課程、大学独自資格の創設 等■ 学部・学科再編 複数学部・学科・コース、学生定員のあり方、他分野（美術、音楽、映像等）への広がり■ 入試制度改革 10月入試■ 大学院設置の必要性
スケジュール感	次期中計期間中に検討開始
将来の展開	キャンパスの拡充・増設

重点施策Ⅱ：但馬教育未来会議

1. オンリーワンに磨きをかける大学

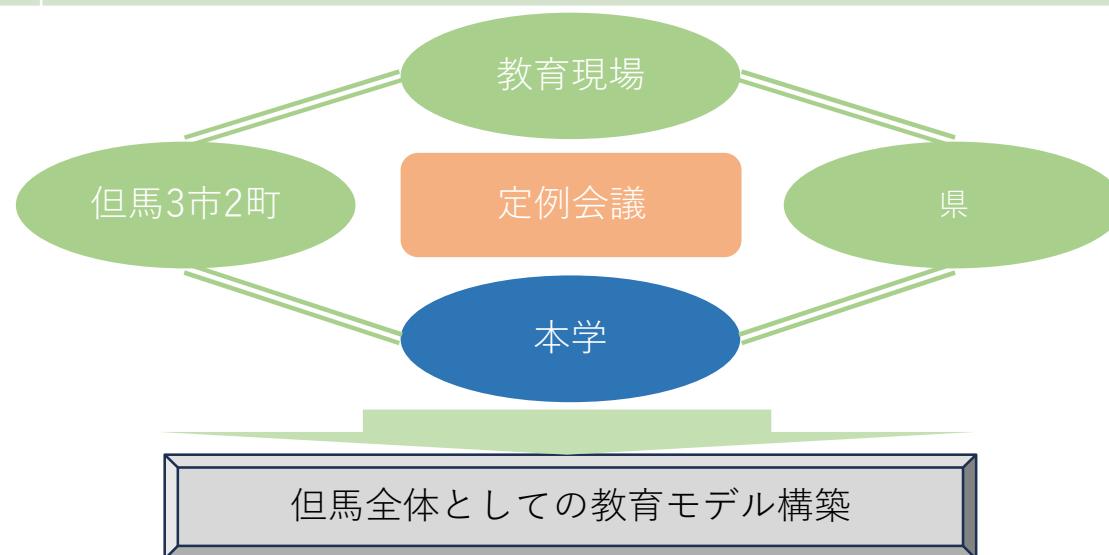
2. 但馬とともにある大学

3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学

4. 働く人の個性と能力が輝く大学

但馬唯一の四年制大学として、
地域（地元自治体等）と本学で構成する会議の設置に積極的に関与し、
但馬の教育の将来について地域とともに考える。

内容	以下の項目について協議する： <ul style="list-style-type: none"> ■ 本学の指定校推薦の導入 ■ 但馬全体の教育のあり方
スケジュール感	早期設置を視野に入れた検討
将来の展開	但馬全体の教育モデルの構築

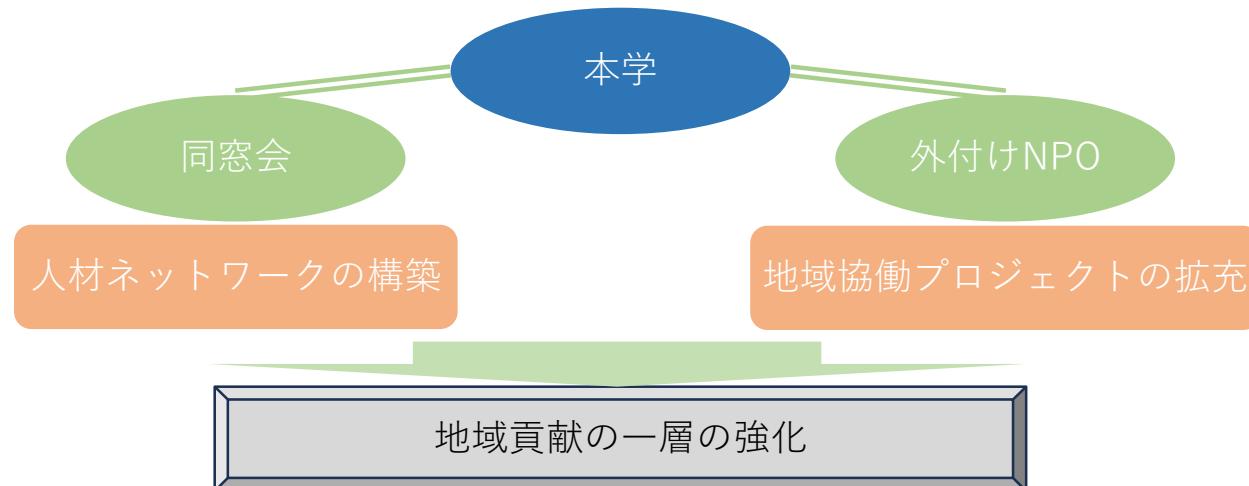


重点施策III：同窓会ネットワーク強化とNPO設立

- 1. オンリーワンに磨きをかける大学
- 2. 但馬とともにある大学
- 3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学
- 4. 働く人の個性と能力が輝く大学

地域との協働を推進するため、
本学から独立した外付けのNPOを設置するとともに、
同窓生のネットワークを強化して、地域との協働事業を推進する。

内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本学から独立した外付けの組織とすることにより、地域協働活動の柔軟性、機動性を確保し、専門業務のノウハウの積み上げを図る ■ 現在のRICが受託している事業を実施
スケジュール感	次期中期目標・計画期間中（2025 - 2030年度）の設置を検討
将来の展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定管理を含めた施設運営による実習先の確保 ■ 独自宿泊施設の運営



重点施策IV：日本語教育センターの設置

1. オンリーワンに磨きをかける大学

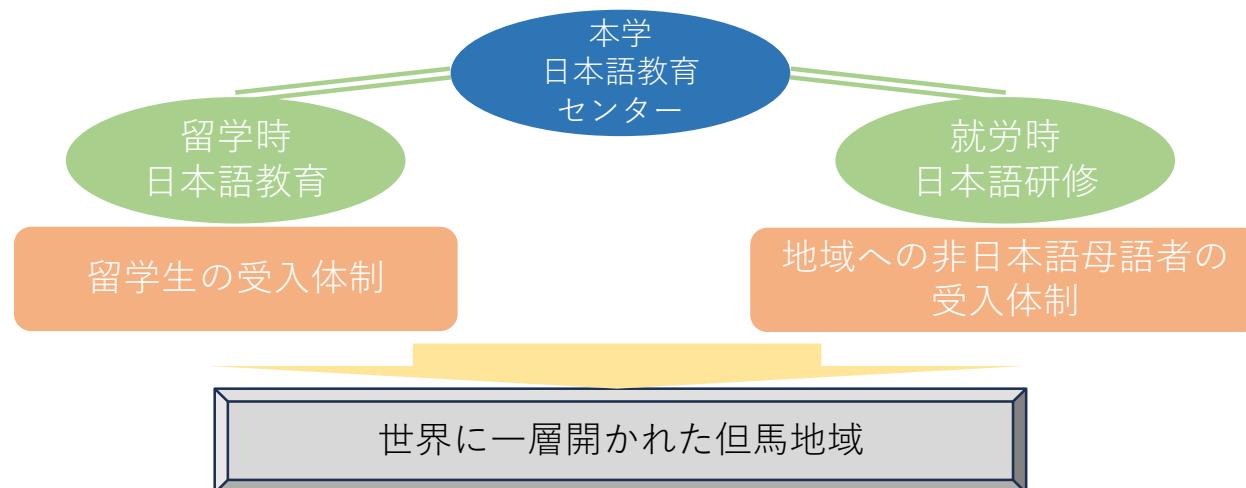
2. 但馬とともにある大学

3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学

4. 働く人の個性と能力が輝く大学

日本語能力に関する留学生の不安を払拭し、
円滑な学生生活等を営むことができる環境を提供するため、
日本語教育センターを設置する。

内容	■ 本学に入学した外国人留学生に対し、日本語および日本文化等の教育を行う
スケジュール感	次期中期目標・計画期間中（2025 - 2030年度）の設置を検討する
将来の展開	■ 本学への入学を希望する外国人留学生や地域の外国人などに日本語等の教育を行う附属の日本語学校を設立する



重点施策V：但馬版アドミッションオフィス設立

1. オンリーワンに磨きをかける大学

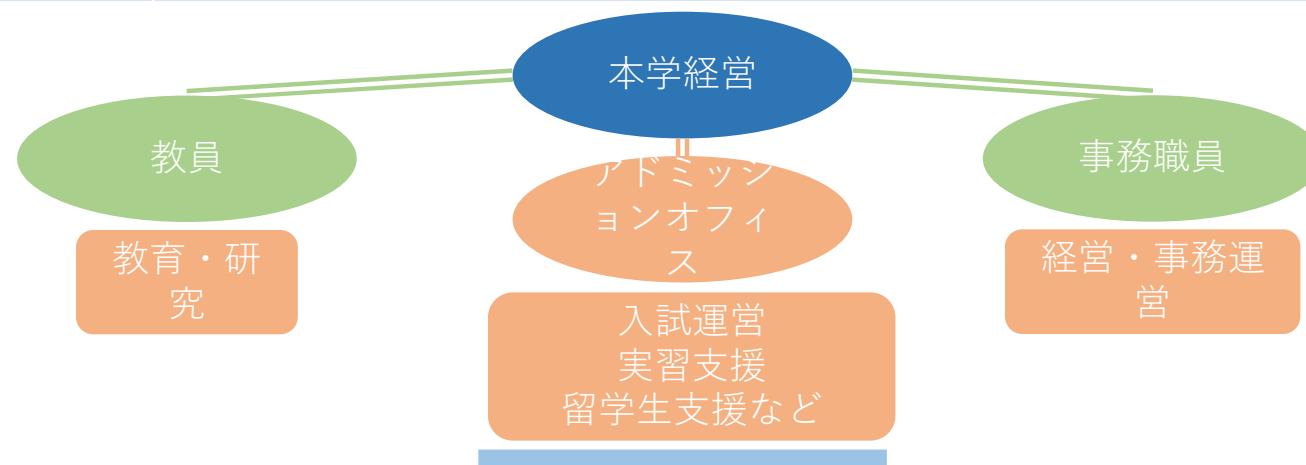
2. 但馬とともにある大学

3. 但馬を世界に開き、世界が憧れる大学

4. 働く人の個性と能力が輝く大学

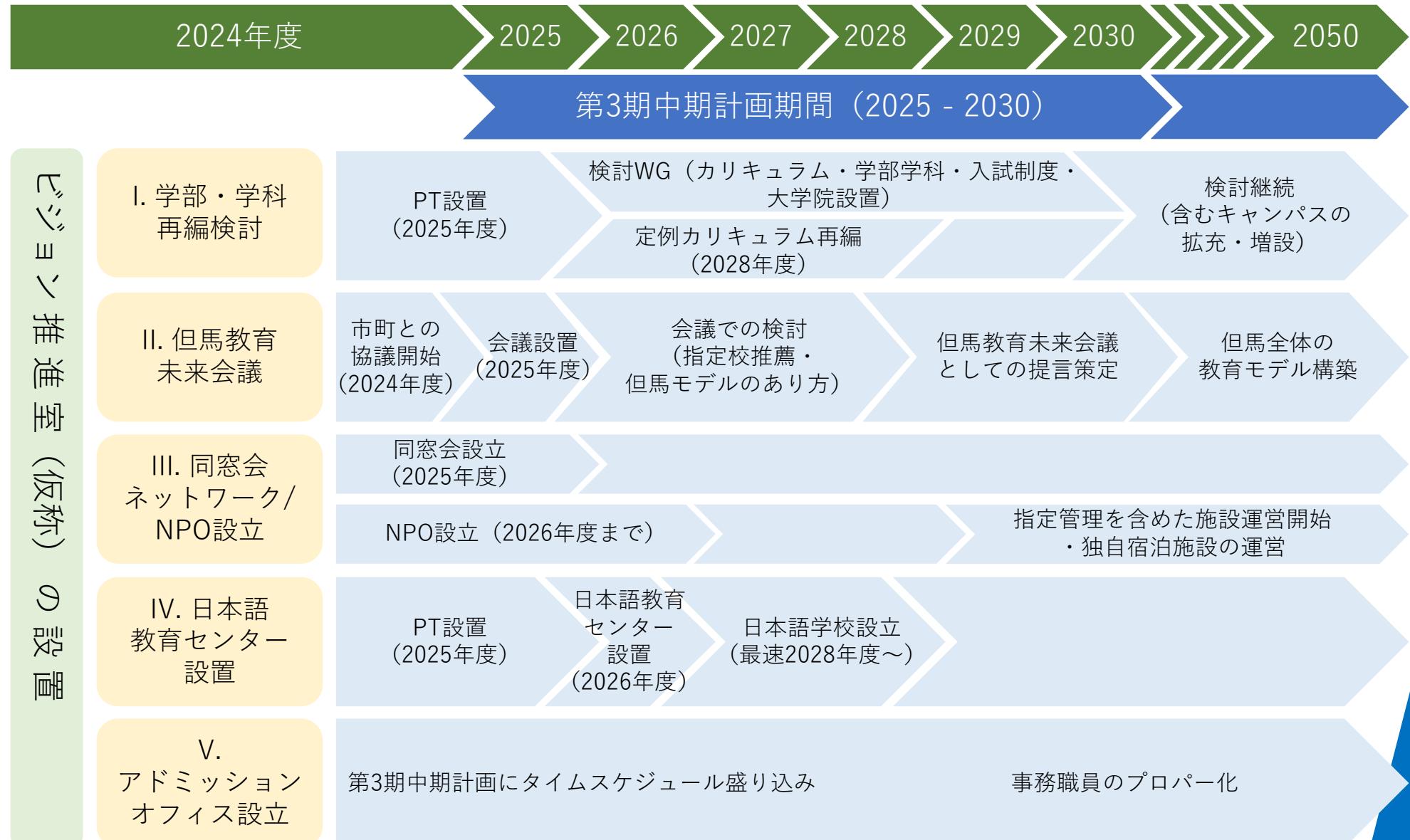
但馬版アドミッションオフィスを設立することにより、
 人事異動サイクルの影響を受けずに、
 専門業務を安定的に推進し、教職員の負担を軽減する。

内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実習支援、留学生支援、入試等の専門的業務を担当する組織を設立 ■ 教員と事務職員の中間的な人員により構成
スケジュール感	次期中期目標・計画期間中（2025 - 2030年度）の設置を検討する
将来の展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事務職員のプロパー化



専門業務の安定運営・質の向上と教職員の負担軽減

ビジョンの検討スケジュール (1)



ビジョンの検討スケジュール（2）

1 ビジョン推進室（仮称）の設置

- 本ビジョンで掲げる取組の実現に向けて、ビジョン推進室（仮称）を設置し、分野横断的に進行管理を行うとともに、学内外の状況の変化を踏まえ、絶えず見直し・改善を図る。

2 5つの重点施策についての優先度を上げた取り組み

- 学部・学科再編等の検討： 2025年度中にPTを立ち上げて検討開始
- 但馬教育未来会議 : 2024年度中に但馬地域の市町に声掛け開始、早期に設置検討
- 同窓会ネットワークの強化と NPOの設立：
2025年度に同窓会立ち上げ
2025年度中にNPO設立の具体的タイムテーブル策定
- 日本語教育センターの設置： 2025年度中に設立準備 PTを立ち上げ
- 但馬版アドミッションオフィスの設立：
次期中計に準備タイムテーブルを盛り込み

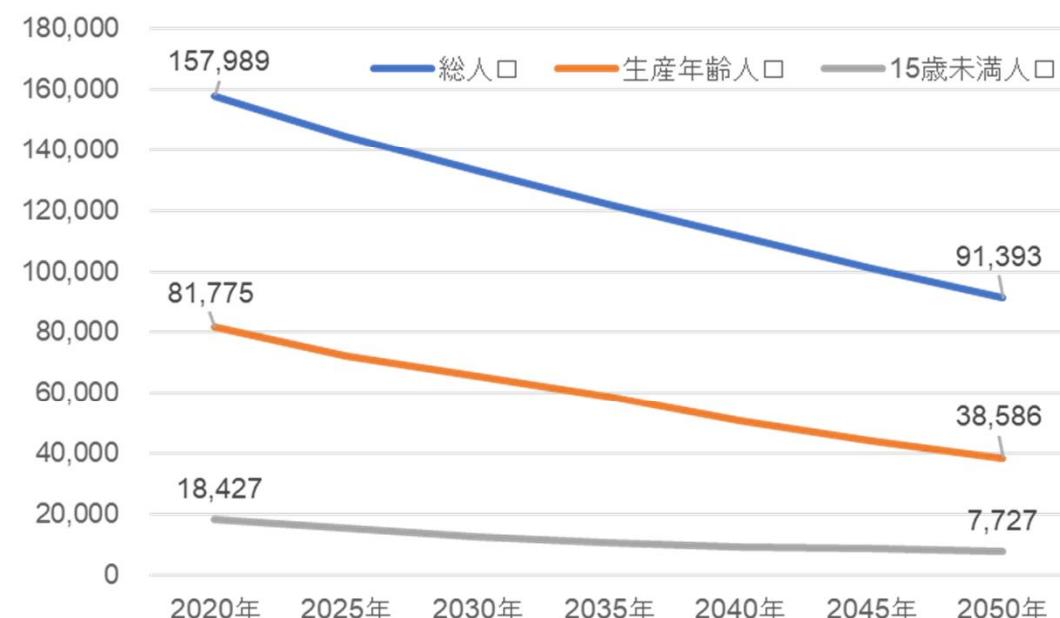


芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism

参考データ集

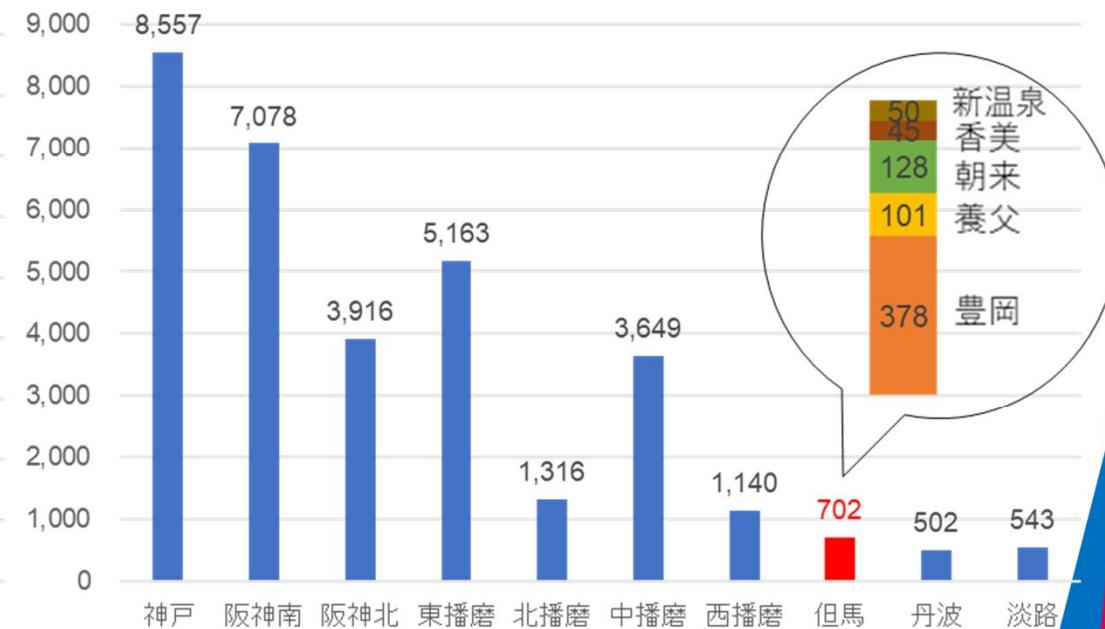
但馬地域の人口

但馬地域の推計将来人口



国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

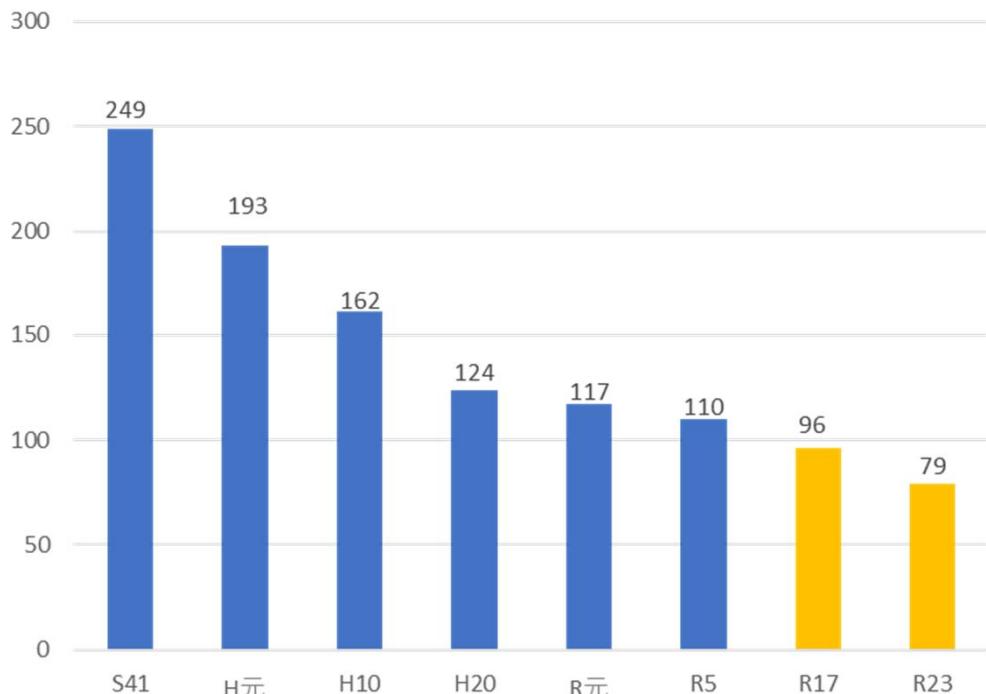
兵庫県内各地のR5年度の出生数



兵庫県「推計人口ホームページ」から本学独自積算

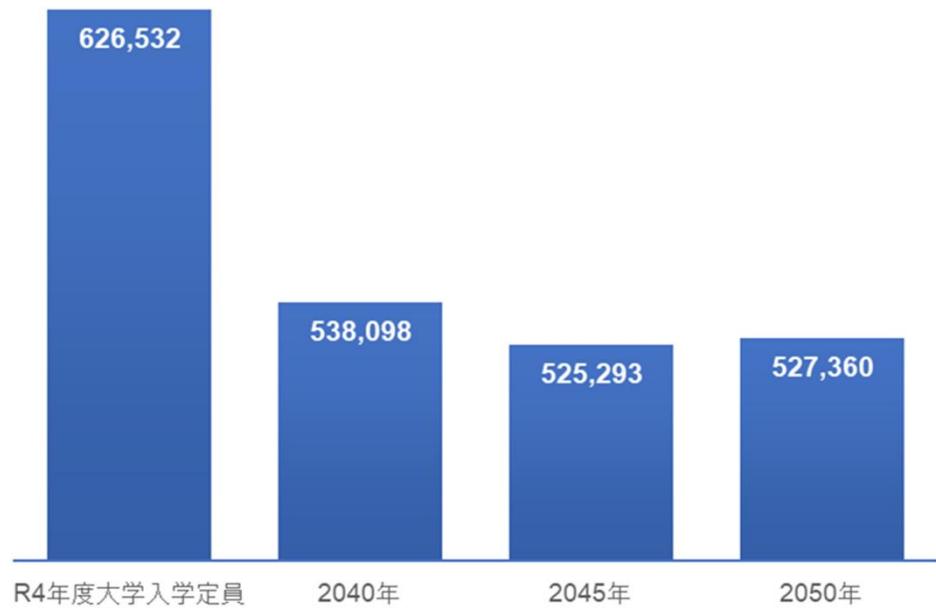
大学進学者数

18歳人口の推移と将来推計



中教審大学分科会(第174回)資料から作成

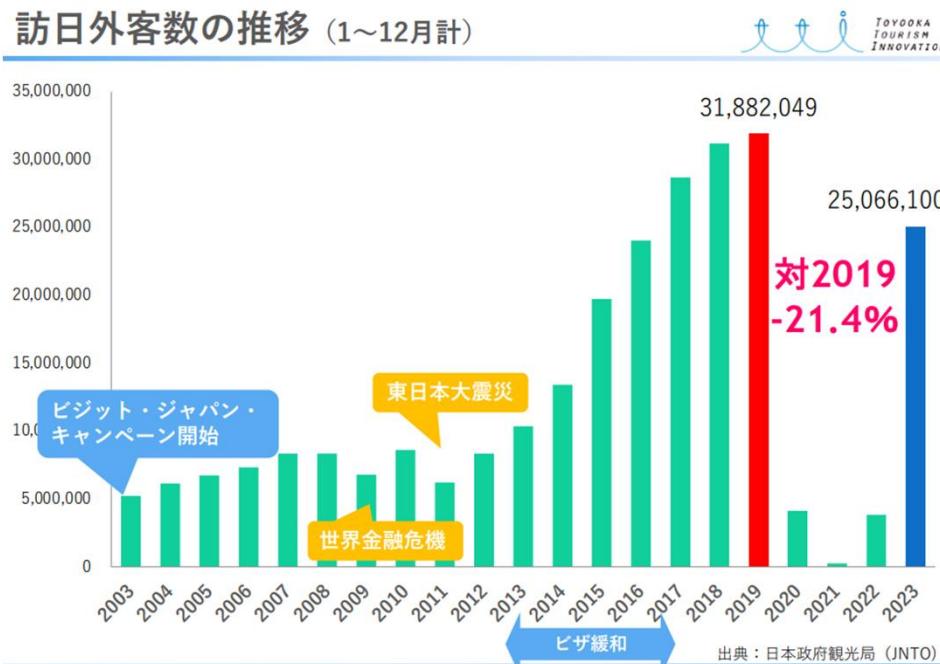
大学進学者数推計



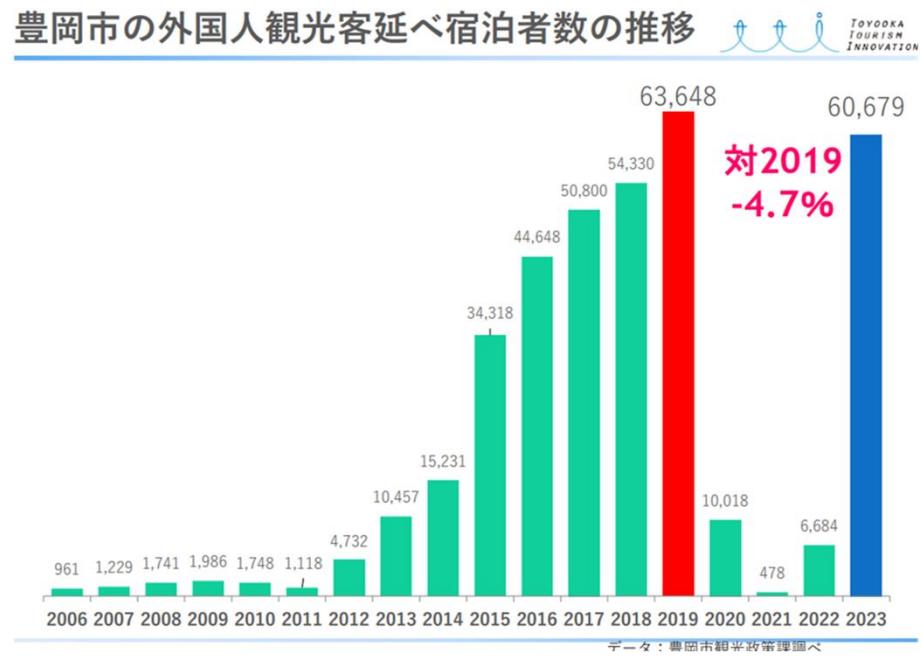
中教審大学分科会(第174回)資料
外国人留学生比率がG7平均(8.08%)となった場合

インバウンド概況 / 社会ニーズの変化

訪日外客数の推移（1~12月計）



豊岡市の外国人観光客延べ宿泊者数の推移

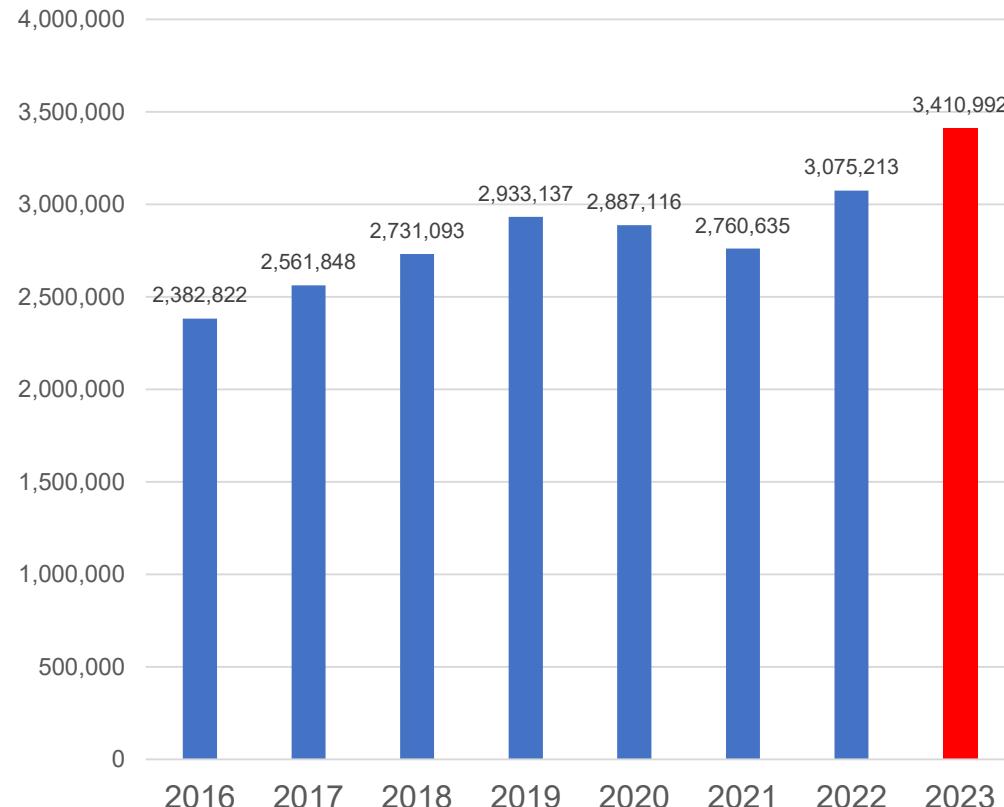


社会ニーズに関するデータ出典

- 中教審大学分科会（第178回資料・経済産業省「未来人材ビジョン」（令和4年））
- 中教審大学分科会（第178回資料・「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果（2022年1月18日）一般社団法人日本経済団体連合会）
- 中教審大学分科会（第178回資料・大卒に求められる資質と技能の国際比較調査）

在留外国人数

在留外国人数の推移（各年末）

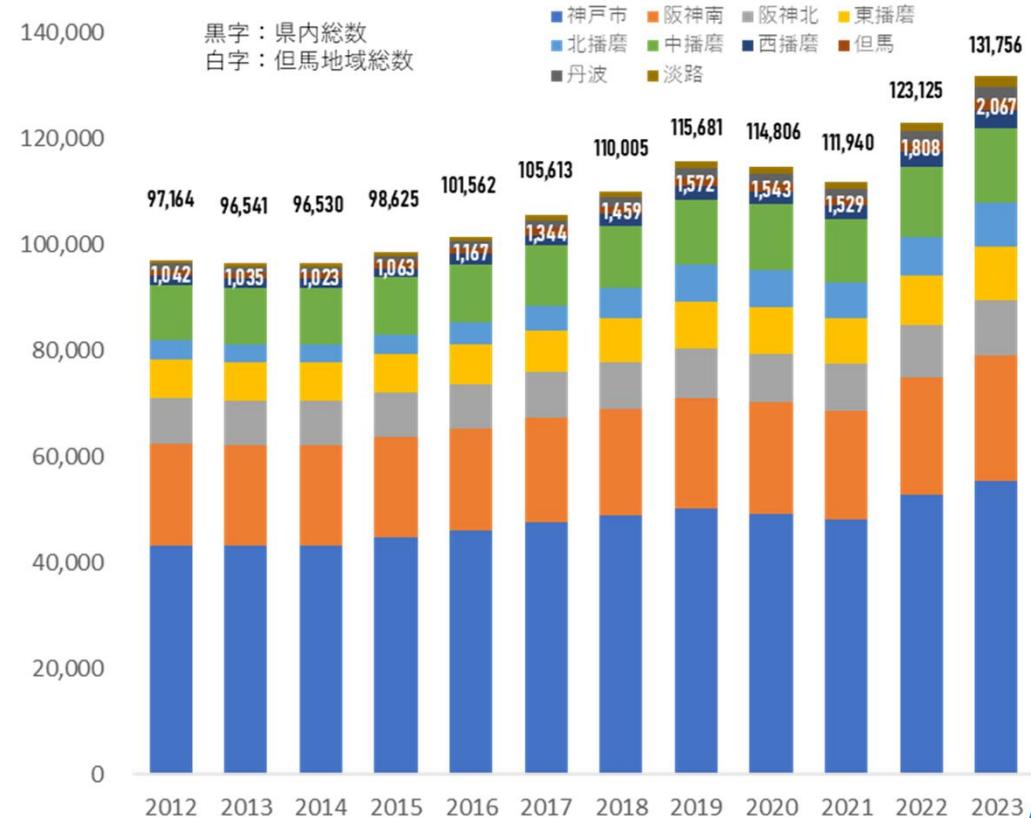


出入国在留管理庁（旧法務省入国管理局）
「在留外国人統計」

<その他データ出典>

- ・ 兵庫県内の外国人児童生徒数： 兵庫県学校基本調査
- ・ 日本語指導が必要な高校生等の大学等進学率：
文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査（令和3年度）」

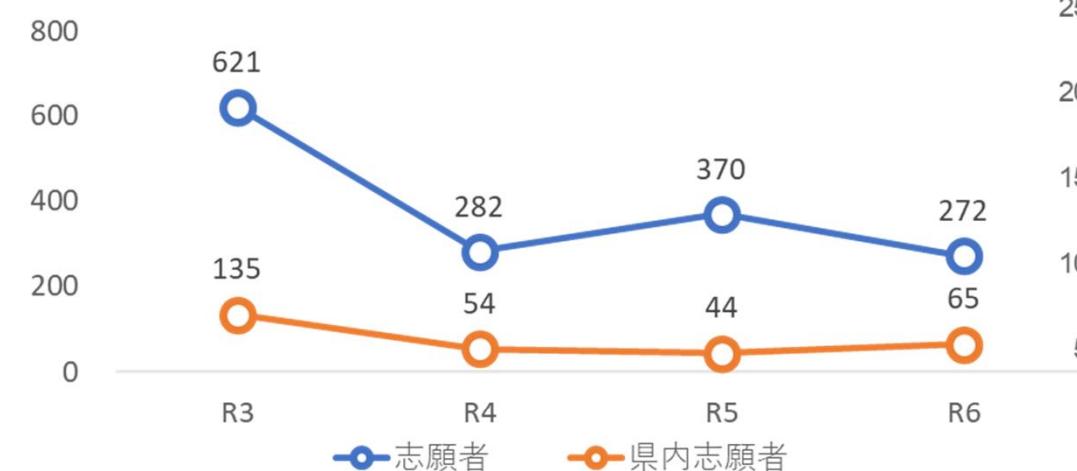
兵庫県内在留外国人数の推移(各年末)



兵庫
「県内在留外国人数一覧」

本学への入学志願者数

志願者数の推移



本学の地域別志願者数(R3～R6入試)

